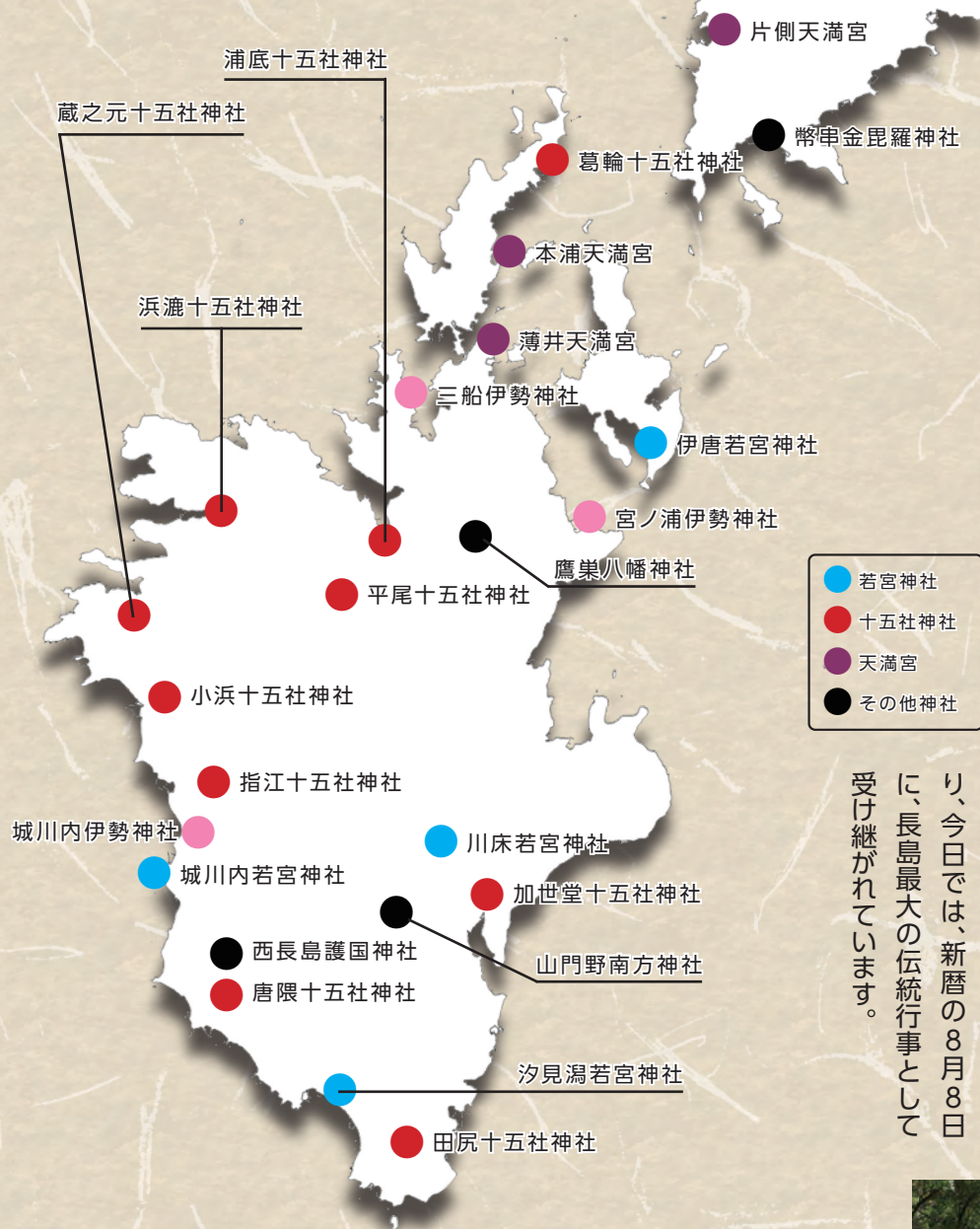


特集 御八日踊りと神社

芸能や踊りが奉納される町内の神社



後の同年7月8日に忠兼は、甥である出水領主の島津義虎によって出水城で謀殺されました。その翌年、長島全土に悪疫が流行したので、島民は忠兼の祟りとして大いに怖れ、靈魂を鎮めるために、城川内と汐見の社に若宮大明神として忠兼を祀りました。

その後、毎年命日である7月8日に踊りを奉納するようになり、今日では、新暦の8月8日に、長島最大の伝統行事として受け継がれています。

※御八日踊りと町の神社の詳細は「長島町郷土史」と「東町郷土史」に掲載されています。内容を元に掲載しています。

（御八日踊りの由来）
1565年3月24日、野田領主の島津忠兼が城川内の堂崎城主である天草越前正を攻め滅ぼし、島津領としましたが、3カ月

毎年、8月8日に、町内各所で御八日踊りが行われます。

御八日踊りは、古くから町内で伝承される特別な行事（祭り）で、鉦踊りや棒踊り、種子島踊り、ひよっとこ踊りなどさまざまな芸能や踊りが奉納されています。

この行事は、島津忠兼が鎮座する若宮神社町内4社に限らず、町内の各所で行われています。（※行事の由来は後述）

今回は、各集落で踊りが奉納されている神社を紹介いたします。

島津忠兼を祀る若宮神社



● 伊唐若宮神社

御祭神：島津忠兼夫婦

天津日高火火出見命

由緒：藩主島津氏がこの島に羊の飼育を計画し、その守護神として創立され、併せて島津忠兼の怨霊をなぐさめるべく合併されたと言われています。



● 汐見潟若宮神社

御祭神：島津忠兼夫婦

由緒：島津忠兼が堂崎城攻略の際、汐見潟の板場鼻に上陸し、この地で戦いがあったため、祠を建て神霊を慰めたとされています。



● 川床若宮神社

御祭神：島津常陸介忠兼夫婦霊

由緒：1824年6月までは、加世堂にあり、その後、現在の場所に移転したと言われています。



● 城川内若宮神社 御祭神：島津忠兼

由緒：忠兼の崇拝が全島に悪疫が流行したので、鎮霊のため堂崎城跡に祠を営んだとされています。